

千客万来

2011年2月
[第31号]



[1] ご挨拶

厳冬!!

皆様如何お過ごしでしょうか。各地より例年にない積雪や鳥インフルエンザの発生に加え、宮崎では新燃岳の噴火等、今年は年明けから自然の脅威や気象変動を、肌で感じる話題ばかり聞こえてきます。改めて当該地域の皆様には、心よりお見舞いを申し上げます。

さて、年は卯に改まりました。日本のみならず、海外情勢もあちこちで不安定さが否めませんが、今年1年が平和で希望の持てる年になることを祈りますと共に、昨年皆様から賜りましたご愛顧に厚くお礼申し上げる次第です。私達「花澤ぶどう研究所」は、本年も一層美味しく安心/安全なぶどう作りに精進して参りますので、引き続きどうぞ宜しくお願い申し上げます。

[2] 本年度の目標

①新エネルギー設備の一部導入による、通年型栽培空調管理の研究に着手

2月後半から一部のハウスへ、新エネルギー(ヒートポンプ型エアコン)設備を導入する予定です。従来のぶどう栽培農家は、お中元やお盆の需要に間に合わせる為の加温設備として、A重油/灯油/ガスを燃料とした設備を主に導入してきたのですが、これらの設備は加温に必要な熱カロリーは十分に確保できるものの、安全性や騒音/燃料コスト/CO2排出量等の環境的側面からみた場合の課題を多く残していました。

今回導入を予定しているヒートポンプ式エアコン(農業用)は、電力を使用するタイプであり、従来型の加温設備が抱えていた多くの課題を解決できるものと思われます。加えて、除湿/冷房機能も装備をしていることから、梅雨から始まる高温多湿期や、夏場の高温乾燥期における管理効果も期待されるところです。私達は地球温暖化防止への取組みも含めた形で、今後のぶどう(ハウス)栽培の新しい基準になるかも知れない空調管理の研究を行います。

②商品構成の整理と新製品の開発及び、研究所CIの作成とHP改良等

生食用ぶどうの生産販売と新品種の研究を主力とする方針には変更はありませんが、ここ数年の各商品の動態を参考にしながら、商品構成やパッケージ等の修正をしたいと考えています。商品構成の詳細は次号でご案内させて頂く予定ですが、それに先立つ意味で「花澤ぶどう研究所」のロゴマークを新に作成しました。(タイトル横のマーク参照)

このロゴマーク、パッと見ただけでぶどうの房をイメージしているとお解かり頂けたでしょうか? 「花澤ぶどう研究所」らしいねと、少しでも感じて頂ければ幸いです。また、葉っぱは瀬戸ジャイアンツです。直ぐに気付かれた方は、相当なぶどうオタクかも知れないですね。(^^)

文字の下にある3つの●粒は、「花澤ぶどう研究所」の代表作である瀬戸ジャイアンツと、マスカット・デュークアモーレ、ハイベリーを表現しています。

次にHPについてですが、これも現在改良を進めているところです。

従来より、ご注文を頂く際の方法がFAX発注しか選択できないことに関する不便さを、多くの皆様からご指摘頂いていましたし、HP上の情報量も年々増加をしていた為、早い時期に整理をする必要性もありました。

これらのことを総合的に判断し、「花澤ぶどう研究所」を今以上に皆様方に見て知って、使って頂く為のHPに変身させたいと思っています。新しいロゴマークや研究所四季折々の写真も使用しながら、当然買物カゴも装備したHPを、5月頃のアップに向け鋭意製作中です。どうぞご期待下さい。

[3] 研究所の主な出来事（2010年収穫期以降）

①研究所視察者多数 8月～12月

ぶどう産地の改善や刷新を意図する、団体/行政の視察が増加しました。日本各地で、これからの栽培品種の選択や品質向上対策への関心(苦悩)が高まってきているようです。しかしながら、各産地が抱えている最も深刻な問題は、生産者の高齢化と後継者問題であり、ここを解決していかなければ、各産地の未来だけでなく日本の農業の未来は存在しないと言えます。若い人達が職業としての農業を選択できるようにする為に、私達も微力ですが頑張ります。

②新製品開発 11月

「花澤ぶどう研究所」の生食用ぶどうを使用して、オリジナルぶどうジュースを製造しました。
(果汁100%のストレートタイプ)

*瀬戸ジャイアンツストレート 100本

*マスカット・デュークアモールストレート 20本

独特の甘みを持ったストレートジュースは、生食時の食感/芳香とは異なる新しい顔ですが、単にジュースとして飲むだけでなく、カクテルやお菓子の材料等も含めて、その利用方法は様々です。販売につきましては、前述の新しいHPへ掲載する予定ですので今暫くお待ち下さい。



*房から実を外して洗います



*皮のままクラッシャーへ
酸化防止のビタミンCもプラス



*こんな感じで潰れました



*潰したぶどうを搾り機へ移し変えながら、
少しずつ頑張って絞ります（手動式）



*絞ったジュースは加熱殺菌

翌朝、瓶詰めをお願いした笹埜造酢(株)へ
運ばれて・・・



720ML
完熟超甘

実1kgで
1本製造

*数工程後、鮮やかなジュースになりました

③施肥 11月～1月

昨年夏の高温で、ぶどうの木も体力を消耗しています。例年通り畜産農家製の完熟堆肥を中心に、約100㎡の木に200kg.程度と、更に魚粉、油粕類10kg.相当を与えました。また、一部の木にはサンゴの粉末を主とした土壌改良剤を施しました。



*土壌改良の様子

木を中心に穴を掘って、その中にサンゴ粉末を入れる
(白く見えているのがサンゴ粉末を入れた穴)

④摘葉 12月

ハウス内は霜がなく落葉が遅い為、12月下旬に一齐に手で葉を落としました。落とした葉は堆肥化して再利用を行います。(これもエコですね)

⑤整枝剪定 1月上旬～中旬

今年は冬が極低温ですので、ぶどうの木はしっかり休眠をしています。これで2月～3月の気温の上昇が早いと、ぶどうの木も例年より早く活動を始めるものと予測されます。



*朝日の中の3号ハウス



*剪定してキレイになった瀬戸ジャイアンツ



[4] 今後の作業予定 (春の発芽期頃まで)

①越冬病害虫の駆除

害虫が越冬しやすい場所を探しながら、ぶどうの木の粗皮を剥ぎます。

②保温準備

3月にはハウスの窓を閉め保温を始めます。こうすると、放任しておくより20日～30日早く発芽させることができます。ハウス栽培と露地栽培で発芽のタイミングをずらせることから、以降の管理作業も分散化できるメリットもあります。ハウスでは保温効果を高める為に、ハウスの中にもう1つのハウスを作るようにフィルムを張っていきます。(内張り/二重張り)

③第1回薬剤散布 2月下旬～3月上旬

芽が膨らむタイミングで、ベンレート剤+オマイト剤の散布を行います。(総合防除)

④園内の整理/整頓

「花澤ぶどう研究所」では、ぶどう栽培の安心/安全を目指す為に、現在農場管理の見える化を進めています。

[5] 研究関連

①品種改良

昨年度は、岡山のカブテレビ局(ONIBIジョン)の福島アナウンサーと、岡山県立瀬戸南高等学校2年生果樹コースの皆さんと取り組みました。

1年目 除雄～交配～採種～貯蔵

2年目 播種～実生苗育成～実生苗移植

3年目 実生育成と果実調査～選抜(淘汰)～特性調査

3年目以降、5年～10年をかけて調査を行い、完成命名/種苗登録～発表となります。

本年度は、2009年度に交配、2010年度播種して育成した実生苗約50本を植付ける予定です。昨年までの取り組みの様子についてはHPをご覧ください。(動画等でご覧頂けます)

②ぶどう栽培初心者講習会 12月

ぶどう栽培に関しては、年間を通じて多くの方々からお問合せを頂いています。

- ・庭で自家用に作ってみたい
- ・瀬戸ジャイアンツを作ってみたい
- ・実のらせ方は?
- ・剪定方法を教えて欲しい
- ・病害虫の防ぎ方は?
- ・肥料のやり方は? 他多数

時間に余裕があれば個々にお答えすることも可能ではありますが、ぶどう管理が忙しい時期にはなかなかそうした時間がとれていないのが実状です。こうした状況を踏まえ、今回初めての試みとして、初心者向けのぶどう栽培講習会を実施しました。講習の内容は、ぶどう栽培の基礎とも言える木の成長習性や土と水の管理を中心に行いました。当日は悪天候にも関わらず、20数名の方にご参加を頂きました。

③視察旅行

中国(9/6～11)

蘇州夜曲で知られる江蘇省/張家港市にある、神園葡萄科技有限公司の招きを受け訪問しました。張家港市は活気のある町で、ぶどうは作れば売られています。まるで、日本のS30年代頃のような印象を受けました。作付け面積としては、約600㎡程度作ってれば家族が生活できるという話ですが、年間の平均気温が15度台という乾燥気候でもあり、ぶどうは大変作り易いといえます。その甘さにも感心しました。今のところ国内需要が活発ですので、輸出については当分は出来ないのではないかと思います。

トルコ(10/29～11/8)

昨年1月に来園されたアバノス市長との約束でもあったことから、収穫が終わったこの時期に訪問してきました。案内はトルコ出身のぶどう生産者である、田邊アリ氏(岡山県勝北町在住)です。アバノス市はカッパドキア地方の主要都市ですが、当然欧州に近い為、ぶどうは皮も種も含めて全て食べるという文化でした。(皮や種に一番栄養があるという解釈ですね)持参した瀬戸ジャイアンツは高い評価を頂き、試作する話でも盛り上がりましたが、無核化をする際に使用するジベレリン(ホルモン剤)の使用が、欧州では好まれないとのことでした。まだまだ研究する余地はありそうです。

[6] あとがき

ヒートポンプ式エアコンでの加温が成功するかどうか、今年最大の課題です。次号にて皆様に良い経過をご報告できるようスタッフ一同頑張ります。

暖かい春まで、あと少し。皆様も健康に留意され、お元気でお過ごし下さい。